

3月22日（日）主日礼拝レジュメ

「人類史上最大の冤罪」 ヨハネの福音書19章1～16節

1節に出てくるピラトとは、ポンティオ・ピラトのこと。使徒信条に「ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられて死に」とあるが、このポンティオ・ピラトと同じ人物。そしてポンティオ・ピラトは、ユダヤ州の地方総督であった。

ピラトはイエス・キリストが無罪だと思っていた。

- ① 18章38節「私はあの人に何の罪も認めない。」と言い、
- ② 19章4節「そうすれば、私にはあの人に何の罪も見出せないことが、おまえたちに分かるだろう。」
- ③ 19章6節「私にはこの人に罪を見出せない。」
- ④ ですから、ルカの福音書23章14～16節「おまえたちはこの人を、民衆を惑わす者として私のところに連れて来た。私がおまえたちの前で取り調べたところ、おまえたちが訴えているような罪は何も見つからなかった。ヘロデも同様だった。私たちにこの人を送り返してきたのだから。見なさい。この人は死に値することを何もしていない。だから私は、むちで懲らしめたくて釈放する。」と言っている。

ヨハネの福音書19章2,3節ではローマの兵隊たちがイエスをあざけていました。ユダヤ人の王に仕立ててからかっていた。そして4節「ピラトは、再び外に出て来て彼らに言った。「さあ、あの人をおまえたちのところに連れて来る。そうすれば、私にはあの人に何の罪も見出せないこ

とが、おまえたちに分かるだろう。」そして、5節で「見よ、この人だ」とピラトが指し示したイエス・キリストは、紫色の着物を着て、頭にいばらの冠をかぶせられ、あちらこちらに裂けた傷があり、顔は腫れあがり、血を流し、まさに痛々しい、とても見ていられないような姿だったことだろう。

- ⑤ ルカ23章2節「この者はわが民を惑わし、カエサルに税金を納めることを禁じ、自分は王キリストだと言っていることが分かりました。」と訴えています。

ピラトが4節で「この人には、訴える理由が何も見つからない。」と言っても、5節で「この者は、ガリラヤから始めてここまで、ユダヤ全土で教えながら民衆を扇動しているのです。」と言いつづけました。ピラトからすると、ヨハネの福音書19章5節で「見よ、この人だ。」と言ったわけですが、この人を見てみる。こんなみじめな姿をした者に誰がついていくというのか、この人のどこがユダヤ人の王なのだ、早く連れて帰って来れという感じだったのではないか。もしかするとピラトが言った罪がないというのは、ユダヤ人指導者が言っているように、とても人を惑わすとかローマ皇帝に反逆するなどということができそうもないとの意味合いもあったのかもしれない。しかし6節「祭司長たちと下役たちはイエスを見ると、「十字架につける。十字架につける」と叫んだ。7節「ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があります。その律法によれば、この人は死に当たります。自分を神の子としたのですから」と言った。ここで彼らの言う律法とは、レビ記24章16節「主の名を汚す者は必ず殺されなければならない。全会衆は必ずその人に石を投げて殺さなければならない。その名を汚すなら、寄留者でもこの国に生まれた者でも殺される。」のことで、つまり、イエスは自分を神の子とすることで神を冒瀆したのだから、当然死に値すると言っている。しかし、イエス・キリストは神であり、人となられたまことの神です。ですから実際に

は、イエス・キリストが自らを神の子と主張することに関しては何の問題もないはず。逆に神が人となられて、この地上に来られた時に、人々はその方を十字架につけて殺した。ユダヤ人たちはイエスに対して怒りを燃やし、イエスを憎んでいたことによってイエスを殺した。人々がイエスに従うことを喜ばず、逆に殺してしまおうと考えた。しかもイエスは決して恐れることなく、パリサイ人の偽善を明らかにした。特に、外見と心の中にある思いの違いを指摘した。

聖書は私たちの偽善の罪を明らかにする。人の目に触れる自分と実際の自分がいかに違うか、自分の人前での態度と陰でしていることや心の中で思っていることがいかに違うかということなど。問題はそのように自分の本当の姿を示された時にどうするのか。聖書は、人はみな罪人であり、義人はいない、ひとりもないと言うが、神は、その罪人を愛され、その罪を赦して、人を御国へと導かれるためにイエス・キリストを十字架につけられた。イエス・キリストが私たちの受けるべきさばきをその身に受けて十字架にかかって死んでくださった。ですから、イエス・キリストを自分の罪からの救い主として信じるなら、罪が赦されて永遠のいのちが与えられる。キリストはユダヤ人の手により十字架にかけられて死なれたかに見えるが、実際にはキリスト自らが、私たちを愛し、私たちの罪を赦して、罪のさばきから救うために十字架にかかって死んでくださった。キリストは神として罪のない方が、罪ある私たちのために、その罪を赦すために十字架にかかり、血を流し、いのちを捨ててくださった。私たちには偽善はないか。このキリストを信じて、罪を赦され、永遠のいのちを神から受ける人となっていたいただきたい。